



令和元年度

# 南小だより

川越市立霞ヶ関南小学校

学校だより 第4号

□令和元年7月1日

□児童数：224名

(R元.6.30 現在)

□校長：武蔵 昌行

【学校教育目標】○やる気 ○思いやり ○げん気

～子供たち一人一人が、学ぶ楽しさ・生きる喜びを実感できる学校～

先週、26日(水)・27日(木)の2日間、6年生の修学旅行を行いました。34名全員が参加でき、無事に戻ってまいりました。普段から学校のリーダーとして取り組んでいる6年生。今回の旅行中も「さすが!!」と思える場面がたくさんありました。歩き疲れている友達のリュックサックを持ち上げて軽くしてあげている子、顔色を見て「大丈夫?」と声をかけている子、通り過ぎる観光客に元気に挨拶をしている子、手伝ってもらった後「ありがとう」と素直にお礼が言える子等…多くの子供たちが素直に、心豊かに、優しい子に育っていることを実感しました。また、実施に際し、6年生の保護者の皆様だけでなく、通学班へのご配慮等、多くの保護者の皆様にご支援いただきました。ありがとうございました。

## 「まとめる」ことの意味とは…

1学期も残すところ14日間となりました。今月は、学習面・生活面ともに、今学期取り組んできたこと「まとめ」ていきます。そこで、明日のお話朝会では、子供たちに「まとめをすること」の意味について話しをします。

辞書で「まとめる」の意味を調べると、多くの場合、次の2つの意味が書かれています。

①ばらばらの物を集めて1つにする。

②整理したり、折り合いをつけたりして、望ましい形に落ち着かせる。形をととのえる。

この意味を考えると、学期末によく使う「まとめ」の意味は、①の方がであると考えます。

子供たちは、新しい学年で迎えたこの1学期、学習や生活、当番活動や係活動、高学年では委員会活動など、様々な場面で「めあて=目標」を立て、その目標を達成させるための努力をしながら、日々、学校生活を送ってきました。各教室の掲示物を見ると、子供たちが立てた学習や生活への目標がよくわかります。

「1学期のまとめをする」とは、一人一人が立てた目標を達成することができたのか。それとも、できなかったのか。それぞれの目標を振り返り、「できたこと」と「できなかったこと」を整理して、新たな目標を立てる準備をすることです。

目標は、「立てて終わり」ではありません。その成果と課題を振り返ることが大切です。できるようになったことで自己肯定感を高めたり、できなかったことを新たな目標にしたりして、今後さらに自分を高めていくための指針になるよう、子供たちの発達段階に応じて指導していきたいと考えています。

## 「危機予測能力」を育てていきましょう!!

子供たちが安全に、安心して学校生活を送るためには、様々な危険に対して自ら考えて行動していく力を身につけていくことが求められます。

地震や竜巻、ゲリラ豪雨などの自然災害を始め、交通事故・不審者への対応については、事前に危機を予測して行動する力「危機予測能力」が自分の身を守ることに繋がります。危険な場面に遭遇したとき、保護者や教師などの大人が必ずしも近くにいるとは限りません。過去の経験をもとに用心したり、結果を予想して行動できたりすることが、起こり得る危険を回避することに繋がります。しかし、子供たちの生活を見ていると、そのときの思いや様子を優先して行動してしまい、「こうしたら、こうなるかもしれない」という、『行動する前に一歩立ち止まり、考えてから行動する力』がまだまだ必要です。

声をかけたからといって、すぐに身につく力ではありません。日々の生活の中で繰り返し指導し、考えさせていく中で危機予測能力は高められます。各ご家庭におかれましても、お子さんの発達段階や環境に応じて「危機予測能力」を高める取組をお願いいたします。